

若者視点から見るサブカルチャーと地域

－「聖地巡礼」を活用した地域づくり－

瀬田 誠人

本論文では、「聖地巡礼」というサブカルチャー発祥の旅行文化を例に、10～20代の若い世代を対象としたアンケート調査や、石川県における現地調査などを通して、若い世代の旅行に対する考え方や傾向、サブカルチャーを起点とした地域の魅力づくりと地域振興のありかたについて論じている。

第1章では、「聖地巡礼」の起源やサブカルチャーのひとつであったアニメという文化がどのようにして世間に浸透し、ファンによる「聖地巡礼」という行動につながったのかという、「聖地巡礼」という文化に対する背景や、「聖地巡礼」が地域にもたらした恩恵について、茨城県大洗町での事例を交えて論じている。

第2章では、前章で「聖地巡礼」がブームとなった要因の1つとして挙げた「インターネットを使う世代の増加」という部分に着目し、Z世代と呼ばれる20代中盤の世代の消費・情報行動に関する調査の結果や、筆者作成のアンケートの結果を通して、若い世代が旅行や観光地に何を求めているかという傾向を探った。そして、これからの時代に、インターネット上の情報が人々の行動や行動の判断基準となるもののひとつとなる可能性を考慮し、インターネット上での発信やコンテンツの分析などの重要性について論じている。

第3章では、実際に「聖地」として多くの人を魅了している地域のひとつである石川県金沢市の湯涌温泉に足を運び、アニメから発祥したお祭りでありながら、地域の伝統的なお祭りとして定着しつつある「ぼんぼり祭り」について調査を行った結果から見えてきた、湯涌温泉の魅力発信の在り方や成功している部分、筆者の考える課題点や改善案について論じている。

第4章では、第3章で取り上げた湯涌温泉のほかに、石川県七尾市の西岸駅というもうひとつの「聖地」の事例や、富山県南砺市で高校生を主体として行われている若い力を使った地域おこしなどの事例を取り上げ、筆者自身が地域課題を改善していく中で必要なものについて探った。その結果、ターゲットとする層を絞ることやコンテンツに依存しない地域の魅力向上(再発見)、地域内外の人々とのコミュニケーションが課題解決に必要な点と論じている。

アニメに限らず1つのコンテンツに依存しない魅力づくり・地域の魅力再発見と、訪問者や地域に興味を持ってくれた人、もしくは興味を持ってもらえるような層に向けて、しっかりとコミュニケーションをとり、若者の力やインターネットやSNSなども活用しながら、その魅力を発信していくことの必要性を本論文では論じている。